

永井地区の「観音講」

3月16日に永井地区で行われた、「観音講」を見学させていただきました。「観音講」は観世音菩薩を信仰する人たちの集まりで、かつては多くの地区で毎月のように行われていましたが、現在明野町内では、永井地区でのみ年一回開かれています。
(内海)

写真1



午後2時。永井地区のうち、旧北永井村と羽出村の2地域の人たちが、幟の立てられた観音堂に集まってきました。まずは、長龍寺のご住職とともに「妙法蓮華経観世音菩薩普門品偈」を讀経します(写真1)。その後、西国・坂東・秩父・当国(甲斐)の「観音経集」の御詠歌を、太鼓の音にあわせて皆で詠みます(写真2)。その後、講員が一重ずつ持ち寄った料理を囲んで、直会を開きます。

写真2



西国三十三箇所霊場: 京都、大阪、滋賀、奈良、和歌山、兵庫、岐阜の2府5県にある33の観音霊場
坂東三十三箇所霊場: 神奈川、埼玉、東京、群馬、栃木、茨城、千葉の1都6県にある33の観音霊場
秩父三十四箇所霊場: 埼玉県秩父にある34の観音霊場
甲斐国三十三箇所霊場: 山梨にある33の観音霊場

「西国三十三箇所霊場」・「坂東三十三箇所霊場」・「秩父三十四箇所霊場」をあわせて「日本百観音」と言う

永井地区 観音堂豆知識



写真3



写真4

観音堂の中には、明野歴史民俗資料館第9回企画展示「馬のいた風景」展でも展示した馬の絵(写真3)がかかっています。牧から都に、馬を献上する時の様子を描いているのではないかとされています(牧のことは後述)。観音堂は、昭和6年11月に、道路整備の関係で現在の場所に移築されました。その時に、その馬の絵も寄贈されたようです。昭和58年3月の初午の日に修理が行われ、平成6年2月には屋根瓦の修理が行われました。現在、観音堂の鬼瓦には「馬」という文字が入っています(写真4)。

企画展でも紹介しましたが、明野は歴史的に馬との繋がりが強い地域です。

平安時代頃には「小笠原の牧」があり、牧で生産・飼育された優良な馬は都へと献上されていました。牧が廃れた後も、馬は人々にとって大切な存在で、近代には農耕や荷馬に使われ、生活に欠かせませんでした。それ故、馬の安全祈願や供養のための石造馬頭観音像が、町内のいたる所に数多く奉納されています。

永井の観音講も、いつの頃からか馬頭観音信仰と結びつき、現代にいたっては、その色合いを濃くしているようです。現在の観音講は、上に書いたように午後2時から始まり、3~4時間で終わりますが、70年前くらいまでは祭りのようにとても盛大に行われていたそうです。前夜祭も開かれ、当日は出店も数多く出て、講員達は近隣の親戚も呼んでいた、とのことでした。

講には、幅広い年代の方々が参加していました。形は変わっても、伝統を守り、毎年のようにそれを続けていく。そのことの大切さを感じました。

縄文王国Yamanashi スペシャルイベント

～世界の文化遺産 中部日本縄文遺跡の魅力を語る～

縄文時代といえば、青森の三内丸山遺跡をイメージされる方が多いでしょう。しかし、日本の縄文時代を代表し、世界的な文化遺産として世界各地の博物館に展示され、書物で紹介されているのは、山梨・長野の縄文女神土器や水煙土器、新潟の火焰土器なのです。縄文研究をリードする4人の講師に、中部日本縄文遺跡のすばらしさを存分に語っていただきます。

日時：平成20年3月30日(日) 午後1時～5時

会場：風土記の丘研修センター講堂

特別講演：

「世界から見た中部日本縄文遺跡の魅力」

昭和女子大学教授 山本 暉久 氏

「火焰土器の遺跡と魅力」

十日町市博物館学芸員 石原 正敏 氏

「長野県の縄文遺跡の魅力」

長野県考古学会会長 会田 進 氏

「縄文女神土器の遺跡と魅力」

山梨県考古学協会委員 長沢宏昌氏

座談会：

「世界の文化遺産、中部縄文遺跡の魅力を語る」

- ・演題は一部変更されることがあります。
- ・スライドなどでわかりやすく解説します。

主催：山梨県立考古博物館
縄文王国山梨実行委員会

共催：山梨県考古学協会

**お問い合わせ：山梨県立考古博物館
：055-266-3881**

会場で、縄文王国山梨特製クリアファイルが
もらえます！

特典★



= ドキドキ！まいぶんシリーズ =

2008年4月の予定～

はじめての囲碁教室

楽しく囲碁を学ぼう！初心者でも大丈夫
日にち：4月11日(金) 午後5時～7時

たのしい手話教室

クイズやゲームをしながら、手話を覚えよう
日にち：4月14日(月) 午後5時～7時

やさしい茶道教室

お茶のお作法を覚えよう。美味しいお菓子もあるよ。
日にち：4月23日(水) 午後5時～7時

おばあちゃんの知恵袋

昔ながらのおやつを作ってみよう！
日にち：4月30日(水) 午後5時～7時

ドキドキ！埋文シリーズで、いろんな体験を
楽しもう 参加者申し込み受付中です！
お問い合わせは茅ヶ岳歴史文化研究所まで。
TEL / FAX : 0551-25-2019

= 会員募集 =

こんなことをやってみたい人は、ぜひ！
歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
イベントを通じてさまざまな人と交流したい

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に
活動してくださる方、ご賛同いただける方を
募集しています。

入会金 1,000 円

年会費 1,000 円

= 編集後記 =

あたたかい日が続くようになり、一気に春が
訪れたようです。発表会や春の例大祭にむけて、
子ども神楽の練習もさらに熱が入っています。

30日には縄文遺跡に関する講演会が開かれ
ます。スタンプラリーなど王国イベントも、今
年はさらにパワーアップして登場する予定！
かわら版での告知を楽しみにお待ち下さい。

かやぶんかわら版 第36号
平成20年3月21日発行
特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所
〒408-0204 北杜市明野町上手8310
明野歴史民俗資料館内
TEL / FAX 0551-25-2019
ホームページ <http://www.kaya-net.jp>